

せいけん  
詩集

第九十一篇

作：近藤せいけん

「春」はる

春はるが来きた

春はるに変わわつた

田たんぼの田たおこし

黒くろ々と土つちが顔かほを出だした

すずめがモズツグミ ヒヨドリが

忙いそしくエサを啄つばむ

風かぜが優やさしくななつた

いいつももの新あたらしい春はるに感かん謝しゃ

見みああげれば

遥はるか大おほ山やまは春はるがすみ

春はるが来きた

田たんぼの細ほそ道みち

足あし元の雑ざつ草そうたちちが

花はなをつつけた

キユウリグサ タンポポ オオイヌノフグリ

雑ざつ草そうの女じよ王わうたち

風かぜにゆゆれる可かれ憐んな花はなたち

いいつももの新あたらしい春はるに感かん謝しゃ

見みああげれば

遥はるか大おほ山やまは春はるがすみ